

市場を読んで 魚を届ける

けん いち
矢野賢一さん
(水産会社経営)

氷点下に冷え込んだ夜明け前の久礼新港。午前6時半、鮮魚店主など約30人が集まって競りが始まった。コンテナに入ったカツオが銀色に光っている。

矢野賢一さんが魚体とサイズを見て札を入れ、競り落としていく。どの大きさのカツオをいくらで仕入れたらベストなのか、ここ数日の価格や県外市場の状況などを計算して決める。

「これぐらいなら売れるかなっていう自分の判断だけ。もう25年やりゆうきね、この仕事」。情報を基に市場の“波”を読み、駆け引きがうまくいったときが面白いという。

矢野さんは丸正水産(本町)の2代目。朝早くから夜中まで、休みなく働く父の姿を見て育った。子どもの頃は家業が嫌だったというが、福岡県の大学を出て、そのまま現地の魚市場に就職。1日ごとに状況が変わる市場の仕事に楽しさを覚えた。2年間働いた後、25歳の時に実家へ戻った。

出荷業者として、カツオの買い付け量は高知県内でトップクラス。久礼や土佐佐賀、高知市弘化台などで仕入れ、その日のうちに高松や大阪、名古屋などの市場に向けて出荷



町にはこんな waza も

作文コンクールで大賞に！青木朝陽さん 七里小学校5年

上空から七里の風景を撮影した映像を見て書いた作文「七里に生まれてよかった」が、県山林協会主催のコンクールで大賞(小学校高学年の部)に輝いた。「うれしかった。ユートピアみたいな七里の自然を思ってた」

未来の
waza!!

「ちよいwaza!!」
「未来のwaza!!」の
応募はこちら



こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。

令和5年度「新文化祭」開催

11月23日、勤労感謝の日、開催された新文化祭。目標集客人数を500人としていたところ約600人、前年比の2倍ほどの人数を集めた。にぎわいをみせました。今年度の「新文化祭」は、主に2年生の生徒が中心となっており、生徒が中心となって運営することや、生徒が地域の事業者さんに出店依頼する、模擬株主制度の導入などの取り組みが特徴です。

準備は今年の4月から始まり、2年生は事業者の呼び込みをする組や校舎の装飾をする組などに分かれ、それぞれ役割を分担しました。先生方から見ても前例のない取り組みであるため、上手くいくか不安という声もありましたが、全国の学校の文化祭の例を調べたり、株について知ったりと後に手探り進むように懸命に準備を進めました。仕上げの10月11日に入



19歳、未来が動き出す。

じゅうく。の科目サポートってどんなことをしているの？

じゅうく。では、国語・英語・数学の授業を実施しています。今回は、国語の授業に焦点を当てて、生徒にどんな変化が出てきたのかをご紹介します！

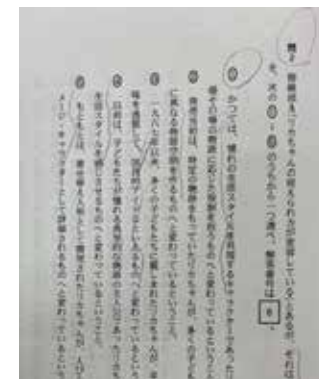
生徒に聞いてみた！実際どう変化した？

Q、国語の授業を受ける中で、変化や成長は感じますか？

A、前よりは苦手意識が減りました。選択問題も自信を持って選べるようになりました。

Q、授業ではどんなことをしていますか？

A、大学入試の過去問を使って問題を解いています。授業で現代を解くコツを教えてもらい、選択肢の中で本文と矛盾しているところがないか、言い回しや使っている言葉に注意して線を引ながら読む練習をしています。まだ間違えるところもありますが、正答率は確実に上がっています。



2016年度センター試験問題を解いている生徒の問題用紙

今までは「なんとなく」で解いていた生徒も、根拠を持って解答できるようになってきました。科目の特性に合わせた攻略の仕方がわかると、結果的に定期テストでも模試でも点数が取れるようになります。「受験に向けて頑張りたい！」「苦手な科目を克服したい！」という方は、ぜひ体験しに来てくださいね。

お問い合わせ先 町営塾「じゅうく。」 ☎ 22-3163

「じゅうく。」
公式facebook